

平成29年 第13回 (定例会)

## 厚真町教育委員会会議録

### 1 開会

平成29年10月27日 (金) 午後3時00分

### 2 閉会

平成29年10月27日 (金) 午後5時25分

### 3 出席委員の氏名

遠藤 秀明 佐藤 泰夫 伴 俊行 長門 茂明 金光 えり

### 4 委員及び傍聴人以外の会議出席者氏名

生涯学習課長 沼田 和男 生涯学習課参事 伊藤 文彦

【書記】学校教育G主幹 木戸 達也

### 5 会議録署名委員の指名

( 伴 俊行 )

( 長門 茂明 )

### 6 教育長報告

(1) 行事参加等の動向 (資料1)

【質疑なし】

(2) 平成30年度教職員当初人事について (資料2)

【質疑】

遠藤教育長：平成30年度教職員当初人事について説明がありました。何かあればお願いします。

伴委員：主幹教諭のことであるが、以前は12学級以上に主幹教諭が配置されていたと思うが、現在、制度が変わったと認識しているがどうなっているのか。

遠藤教育長：主幹教諭は、教職員の職員の多忙感の解消のことにも繋がるので確認する。

木戸主幹：次回の教育委員会で回答させてもらう。

(3) 平成30年度予算編成方針 (資料3)

【質疑】

遠藤教育長：予算編成方針についてはいかがでしょうか。

昨年度と比べると予算フレームはどうか。

沼田課長 : フレーム上は5千6百万円ほど増えているが、30年度は実施計画の関わりなどで予算が1億ほど増加する見通しである。それにスライドして一般財源の額も増えている。学校教育では中央小のプールに3千4百万、中学生の海外派遣で1千万円新規の事業を予定しているし、社会教育の新規分もある。

伴委員 : 大きな予算を除いたものは、増加傾向なのか。

沼田課長 : 削減傾向である。政策的な予算(枠外予算)で5千万円程度と説明を受けている。

伴委員 : 経常経費が削減されると事務方がきつくなる。

遠藤教育長 : 毎年その部分は町全体では削減傾向にある。

沼田課長 : 学校予算については横ばいを保っている。備品等については年度ごとで調整している。

伴委員 : 学校が学校活動を有意義に展開していくためにはある程度の予算が必要である。

遠藤教育長 : 本年度の学校予算で児童生徒一人あたりに換算すると約46万円。それは維持したい。

(4) 第5回厚真町議会臨時会 10月27日

(資料4)

・平成29年度一般会計補正予算について

#### 【質疑】

遠藤教育長 : 補正予算について、何か質問等がありましたらお願いします。

金光委員 : 厚真地区の放課後児童クラブの建設予定場所は崖のようになっている。

伊藤参事 : 土を盛って、現在の道路と同じレベルになるようにするが、杭を打つことになる。

## 7 所管報告

### 学校教育グループ

(1) 10月11日(水)、JAとまこまい広域農協から学校給食センターに新米「ななつぼし」50kgが寄贈。

(2) 議会総務文教常任委員会所管事務調査/10月18日(水)/議会会議室(資料5) 事務調査/厚真町中学生海外派遣研修事業(仮称)の概要について

(3) 10月24日(火)、上野の山家拓也さんから学校給食センターに人参50kgが寄贈

(4) 第2回厚真町学校運営協議会設立準備委員会(10月24日開催)について

(資料6)

#### 【質疑】

遠藤教育長 : 学校教育グループから4点報告がありました。何かあればお願いします。

伴委員 : 海外派遣の調査ことについてであるが、これは無記名であったのか。

沼田課長 : 無記名で行った。学年は記載してもらっている。

伴委員 : 記名だとしっかり責任をもった記述なると思うが、無記名であるとそうでないものが見受けられる。例えば「日常、生徒が困っていることも解決できないのに…」と書かれて

いる。これは緊急な課題であると思う。親は日常発生している問題を解決できていないのではないかと訴えている。記名であるとは対応できるが、無記名だと対応できない。これは調査票だけに留めておくことができない事ではないか。その部分を記名か無記名するか判断するところであったと思う。この部分はどのようにとらえているのか。

金光委員 : これは手上げ方式の実施することに対しての調査なのか。

沼田課長 : そうである。無記名であるが学校や学年はわかる。

伴委員 : 最低限、学校に知らせて事実を確認することは必要だと思う。

沼田課長 : この調査は9月に行い、10月に取りまとめ、その結果や内容は学校や保護者に周知しているが、伴委員のおっしゃるとおりであると思う。

遠藤教育長 : これは海外派遣事業とは別に対応していかなければならない。

伴委員 : 別次元で記載されている内容なので問題意識を持たなければならぬことである。

遠藤教育長 : 前年度行った調査は記名で行ったので、はっきりといろいろなことを書いてもらった記憶がある。

金光委員 : 平成5年度から20年度まで海外派遣事業を実施してきて、一度廃止したものをまた実施するのは、現在英語教育に力を入れてきたことの検証の必要性があるということで行われるものなのか。

沼田課長 : 過去に15年間中高生の海外派遣事業を行ってきたが、それも手上げ方式で行っていた。その時は行ける子ども、行けない子どもがいるので、すべての子どもが英語と関わる機会を与えることができるように、海外派遣事業を廃止し、ALTを1人体制から2人体制にしたと聞いている。今回の海外派遣については、英語教育推進事業が平成23年度から本町が英語教育推進委員会を立ち上げて、24年度から文科省の特例指定を受け、27年度からそれを拡大して行ってきた経緯がある。また、その間、子どもたちに英語環境を提供する厚真PRプロジェクトやイングリッシュキャンプなどを行ってきた。最後には、英語教育の目標である「夢のある英語教育」に沿い、実際に海外の場で子どもたちに今まで学んできた英語を試す場を設けたいという思いがあった。当初は修学旅行に位置付けて実施する方向であったが、治安や健康面の不安により保護者全員の同意が得られなかったので手上げ方式に移行してきた。この事業についても平成30年度から3年間で区切りをつける予定である。英語教育推進委員からは英語を試す場は国内でもできるのではないかという意見もある。

金光委員 : この事業に関しては反対意見も耳に入る。3年間に限った事業であり、調査にしても対象となる学年のみになっていることから、対象となっていない保護者からは意見をいう場もないのかという話を聞く。3年間は特別なのかということである。学校の先生からも町の意向として実施したいのはわかるが、一般の先生には概要を含めて、内容が伝わっていないようである。

全事業が保護者等の賛同を得ることはできないと思うが、この事業は保護者や先生に対して説明不足であったような気がする。

沼田課長 : 説明会は2回行ったが、保護者の出席者数は芳しくなかった。説明会で出た質問や意見や調査結果については保護者に周知している。平成32年度から新学習指導要領に移行していくし、子どもたちが学び、先生方が指導してきた英語教育、コミュニケーション科がどれほどの効果等があったのかを3年間で試してみて、先ほど触れた新学習指導要領に変わっていく時期でもあるので指導の中に入れていきたいと考えている。

遠藤教育長 : 3年間で終了すると収縮していくものではない。英語教育推進についてはさらに充実させていきたいというのが私の考えである。派遣により子どもたちがどのように感じ、他の子どもたちにどう伝えていくのかを見てみたい。

まずは3年間の結果みて、それ以降の英語教育の充実に生かしていきたいと考えている。

金光委員 : 私の感触としては、行きたい、参加したいと思っている子どもは、英語が得意であったり、積極的な子どもである。一部の子どもたちだけを見て、厚真町が行ってきた英語教育の検証と言えるか疑問である。

沼田課長 : 教育委員会としては、選考では英語ができる生徒を選考するとは考えていなく、行きたいと意欲がある子どもを派遣したいと考えている。英語ができない子どもでも、いろいろなことを感じるができると思うので、感じことを他の子どもたちに伝えて広がりがあるって欲しいと考えている。また、引率した先生についても同様に今後の指導面での広がりを望んでいる。

長門委員 : 保護者の視点でいうと、厚真の英語を取り巻く環境はALTの配置をはじめ恵まれていると思う。反面、厚真の環境は恵まれ過ぎているので、外に出たときに外国人とコミュニケーションが取れるか、また、見知らぬ人と英語でコミュニケーションがとれるか、そのような環境に置かれたときに、自分を生かすことができるのかということの検証につながるのではないかと考えている。参加したいという人は11人程度いるが、その生徒たちが特別扱いされる類の事業ではないと判断しているし、チャンスとしては公平であると思っている。

伴委員 : 日本国内でもできるという意見があるというが、日本で行うのと海外では全く違うと思う。海外では英語ができないと困る状況となるので、その中から自分自身の英語力を見つめ直す機会、人として成長する部分で貴重な体験になると思っている。

金光委員 : 当初、夢のある英語教育という理念で全員が行くということなら理解や納得ができるものであったが、種々の理由から実現することができなかった。「海外派遣にこだわり過ぎ」、「困っていることも解決できない」などの意見は、この事業に対して賛同していない保護者からの声になっているのかと思う。

伴委員 : 先ほども触れたが、それは海外派遣とは別問題である。

確かにはじめは修学旅行で実施することができれば良いと思っていたが、実際は叶わなかった。しかし、叶わなかったから事業を止めるのかということにはならないと思う。規模を小さくしてもそのような機会を提供することは大事であると思っているし、今はそのような流れになっている。まず、3年間実施してみて、結果に基づいて子どもや親

の意見を聞きながら、次の段階に進んでいけばよいと思う。

遠藤教育長：3年間に区切った事業であるが、その後の事業展開については、来年度から派遣した子どもたちの様子などを情報発信し、意見を広く聞きながら判断していきたい。

伴委員：調査をする際に、どのような経緯で事業を行うこと記した前文のようなものはあったのか。なぜかという説明会に参列した保護者が少ないからである。

沼田課長：2回目の保護者説明会終了後、事業の目的や研修内容の文書のほか、説明会で出た保護者の意見、教育委員会の回答を資料として添付している。文書の中には事業内容の変遷やなぜ子どもたちを海外に派遣したいかということに関しては説明が足りなかった部分もあるかもしれない。

伴委員：教育委員会の本意がどこまで伝わっているのかは大事なことだと思っている。

長門委員：参観日の際の説明会で拒否反応を示した保護者にとっては、今回の説明会に来てもらおうとすることは大変なことだと思っている。行くことを迷っている子どももいるかと思うが、子どもたちが行きたくなるような事業展開でみんなが行きたくなることを目指してもらいたいと以前言った覚えがある。そこが忘れ去られ、事業が独り歩きしているように少し感じている。この事業が良い・悪いが表だって出てしまっているのもつたいない気がしている。

遠藤教育長：経済的な理由により、行くことができない子どもがいるかもしれない。不公平感を生まない措置等を考えていくことも必要である。経費の負担を軽減するというのではなく、例えば、負担の時期を延ばすとか貸付けをして分割にするなどであるが、議会からもそのような意見があった。子どもに行きたい意欲があったのにもかかわらず叶わないことは子どもにとっても親にとってもつらいことだと思う。そのことについては考えている。総務文教委員会では事業に対して肯定的な意見が多かったが、それに甘えることなく情報発信をしながら来年度の実施に向けた準備を進めていきたい。

## 社会教育グループ

### (1) 厚真放課後児童クラブ整備に関する意見交換会（第4回）

10月5日（木）総合福祉センター 参加者1名

### (2) 第18回健康ふれあいマラソン大会

10月9日（月）本郷かしわ公園野球場周辺 参加者198名

大会新記録 小学生女子1年 中島夏音さん

### (3) 厚真町北部の発見ツアー

10月15日（日）厚幌ダムほか 参加者10名

### (4) 星空コンサート／プラネタリウム現機種最終投映会

10月15日（日）青少年センター 参加者45名

### (5) 厚真町メディア教育講演会

10月25日（水）総合福祉センター 参加者28名

講師 NPO法人子どもとメディア 常務理事 古野陽一 氏

【質疑】

遠藤教育長：社会教育グループから5点報告がありました。何かあればお願いします。

伴委員：プラネタリウム現機種最終投映会の参加者が45人ということで多くの町民に会場してもらったようであるが、子どもの参加はどのようなものであったか。また、メディア教育講演会の子どもの参加はどうであったか。また、参加は誰が行ってもよいものであったのか。

伊藤参事：メディア講演会が参加は自由であった。プラネタリウムの子どもの参加者数は把握していないが、子ども連れもかなりいたと聞いている。メディア講演会は夜の開催であったので、保護者や学校の先生が参加していた。講演会の前に厚南中学校で生徒対象の講習会を行っている。

遠藤教育長：メディア関連の講演会を聞く度に衝撃を受ける。今回も子どもにとってのメディアの利用については一つも良いことは言っていなかった。ただ、厚真町は日本一と言わないまでも、それに近いくらい所持率等が少ないし、メディアに対する取組を行っている先生は言及していた。子ども、家庭、学校もメディア利用に対する意識は高いので、取組を進めて行って欲しいと話していた。講演内容を聴いて、未就学児童を持つ保護者にこのような講演を聴いてもらいたいと思った。

中高生になっては取り返しがつかない。何も判断できない子どもに親が子どもをあやすためにスマホを使い、子どもがそれを吸収してしまう。子どもの成長に一番影響を与えているのは、子どもの心や体を育てる家庭の育ちや環境が一番大きい。子どもの成長により関心をもって、子どもの成長を長い目でみて、自分たちがどのようにしたら良いのか、いろいろなことを勉強や研修する機会を私たちは提供や発信していかなければならないと感じた。保護者の参加は4～5人ほどであったが、その方々は他の研修会でも参加している保護者である。そのすそ野は広げなければならぬし、小中学校の母親学級などのPTA活動でも今回の先生のような方を招へいして実施することも考えられると感じた。保護者は責任を持たなければならぬ世代の子どもに対して野放しにしてはいけない。親がしっかり責任をもってメディアと子どもたちは向き合っていかなければならない。それが希薄になっており、危惧されることに私も同感した。

伴委員：すべてが悪いわけではない。年代に相応した使い方があつた。すべてが大人と同じような使い方にはならない。使い方をわきまえさせるのはやはり親の役目である。子どもが健全に育つためには、場面・場面で親が子どもに教えることができるようにならなければならない。

遠藤教育長：講演会で古野先生は、親子の関係や絆が薄くなっていることも触れていた。

外国では、子どもが訴えたことが歌になった。その内容は「私はスマホになりたい」というもので、結局は親は子どもに目を向けず、スマホに真剣になっているというものである。また、ある調査機関が日本とアメリカでスマホに関する調査をした。それは、「親はあなたとスマホをどちらが大切だと思っていますか」という子どもに対する質問である。結果は、日本は圧倒的に親はスマホの方が大事と子どもが思っている回答が多かった現実がある。それが続

くと未来はないという言い方があるテレビでされていた。

長門委員 : 道具としては非常に便利なものなので、これは道具なんだということから教えないとダメだ  
と思う。

遠藤教育長 : スマホが中学生までの間に必要なのかというと、先生は必要ないと言い切る。親はスマホを  
持たないと仲間はずれになるという言葉にまいってしまう。このような運動をしっかりと行  
うとともに、メディアに関する講演会をたくさん開催していきたい。

佐藤委員長 : 事業の開催のお知らせに防災無線で全町放送を流した方がよい。

伴委員 : 聞いている町民が多いので防災無線は活用した方がよい。

遠藤教育長 : 古野先生の話の中で、学校の定期テストの1週間程度前にスマホ等のメディアから一切触れ  
ないで試験に取組という運動があった。その結果がどうなるか子どもたちに実感させなさい  
というものであった。少しでも良い結果ができれば、少しずつ実感できるというものであった。

金光委員 : 本町の中学生のスマホの所有率はどれほどか。

遠藤教育長 : 全国は6~7割に達している。

伊藤参事 : 本町は40%台と記憶している。

伴委員 : 健康ふれあいマラソン大会の件であるが、記録が出るのが遅すぎる。昨年も遅いと思ったが  
今年は去年よりも遅かった。競技が終了した後、表彰までに40分以上子どもたちを待たせ  
た状況であった。教育長の閉会式の挨拶の中で改善していくと話をしてしたが、改善するた  
めには、英断しないと改善できないのではないかと考えている。約200人の参加者がいる  
のだから、もう少しスムーズに記録をとることができるよう、少し経費はかかるが改善して  
いった方がよいと思った。

伊藤参事 : 委員が言うものは記録が瞬時に出るチップですね。

伴委員 : 業者に依頼するとリースでも対応できる。ゴールすると記録が出て集計も早いし、間違いが  
ない。ただし、経費が百万円単位となる。

伊藤参事 : ウォーキング競技の選手も同じゴールに入ってしまったということで、順位を確定するのに  
時間を要した。来年度はゴールを別にする。

伴委員 : ウォーキングは別のゴールを設けていたのでは。

伊藤参事 : そのようにしていたが、入ってきてしまった。

遠藤教育長 : 毎回起きるトラブルの要因が異なっている。今年は途中で1人棄権し、また、ウォーキング  
の選手がゴールにまぎれた。確認するは計時と監察であるが、その部分を細分化する必要が  
あると思うが、しっかり把握できる形にしないとまた同じことが起こる気がする。

伴委員 : 昨年度も遅いと思ったが、小さい子どもがいるので待たせ過ぎである。抜本的な改善が必要  
である。すべての人がゴールして20分後くらいで表彰できるようになればよいと思う。

長門委員 : 事業として継続するのであれば、百万円の出費は構わないのではないか。システムを構築す  
れば長い間使えることができる。費用対効果はあると思う。

伊藤参事 : 上位の入賞者だけで表彰式をとり急ぎ行うことも考えられる。

遠藤教育長 : 一昨年は上位入賞者で間違いがあった。子どもがその間違いは非常に傷つく。

伴委員 : 計時係と監察係は別々にしなければならない。

このマラソン大会は、健康ふれあいという位置づけから町民しか参加することができないか。

伊藤参事 : その通りです。

伴委員 : 他の市町からも参加でき、大会を大きくする考えはあるのか。外部からも参加できるようになると大会規模が大きくなるのではないかと考えている。それも厚真町の活性化に繋がっていくのではないかと考えている。

遠藤教育長 : そうなると教育委員会で収まる事業ではなくなるので、今度の総合教育会議に町長に投げかけてみる必要があるかもしれない。

伴委員 : 隣町では町内外から参加を募って行っている大会があるようだ。

伊藤参事 : これとは違う企画も考えられる。ピクニックを兼ねた町内のほうぼうを回るマラピックもある。

遠藤教育長 : マラソン大会等については調査させてもらう。

## 8 その他

(1) 平成29年度教育委員と小中学校PTA役員保護者との懇談会について (予定)

・日程 12月4日～12月8日で調整中

※沼田課長 : 日程が決まり次第、各委員に連絡をする。

追加 (2) 教育委員の学校訪問について

※沼田課長 : 11月30日 (月)、厚真中央小学校と厚真中学校の学校訪問の確認

## 9 次回委員会の開催日程

・11月30日 (木) 午後2時30分 (予定)

## 10 閉会

厚真町教育委員会会議規則第18条の規程により署名する

平成 年 月 日

教育長

平成 年 月 日

署名委員

平成 年 月 日

署名委員

平成 年 月 日

生涯学習課長（調製）